

資生堂 男性版顔立ちマップ開発で メイクによる自己表現を支援

資生堂は、高い技術と経験を持つ同社所属のヘアメイクアップアーティストの美的感性と、グローバルイノベーションセンターで長年培ってきた顔立ちや印象に関する研究知見をもとに「男性版顔立ちマップ」を開発した。マップを活用して眉を整えることで、自分の顔立ちに合わせて簡単にしたい印象を演出することができる。さらに7月4日からは、ヘアメイクアップアーティストがメンズメイクのテクニック等をわかりやすく解説する動画をYouTubeに掲載している。

近年国内では、男性化粧市場が伸長しており、スキンケアだけでなく、メイクアップについても徐々に高まってきている。一方で、メイクをしてみたいが「なにから始めて良いかわからない」「自分に最適な方法がわからない」という理由から、実践していない人も多数存在する。

このような現状を受け、資生堂は1996年から開発した「女性版顔立ちマップ」に続き、男性版「顔立ちマップ」を開発した。男性版「顔立ちマップ」の作成に当たって、男性の顔立ちと印象に近づけられるツールを開発に着手した。

あなたの顔立ちタイプを見つけよう

男性版マップの作成にあたり、男性の顔立ちと印象に近づけられるツールを開発に着手した。

花王 リップケア製剤の水分閉塞性と あれ改善の関係を初解明

花王メイクアップ研究所は、汎用の油剤とワックスからなるリップケア製剤の塗膜の水分閉塞性の高さが唇のあれ改善に大きく寄与するところを見出した。

唇は人の体の中でも特に乾燥しやすい場所であり、口唇粘膜と皮膚の境目なので皮脂腺がなく、表面を覆う油分が分泌されない。こうしたことから、唇の角層はほかの皮膚の角層に比べて水分が蒸散しやすく、多くの人々が乾燥・皮むけといった悩みを抱えており、このような唇のケアにリップクリームが一般的に

使われている。これまで、リップクリームに含まれる成分の唇のあれ改善効果について盛んに研究されてきたが、塗膜の水分閉塞性がどのくらい唇のあれ改善に寄与しているのかは明らかになっていなかった。そこで今回、汎用の油剤とワックスを組み合わせて、水分閉塞性の異なる製剤をつくり、その塗膜の水分閉塞性の違いによる唇の乾燥・あれ改善効果を検証した。

唇の乾燥が気になる20〜39歳(平均28・1歳)の日本人女性20名を対象に、塗膜の水分閉塞性が

それに紐づく印象を研究した。まず、アーティストが様々な男性の顔写真を見て顔立ちの類似度を評価し、その結果を研究員が統計解析処理(MD SII多次元尺度構成法)を実施。これにより、アーティストが男性の顔立ちを見極める際に重視する顔の形態特徴を科学的に解釈し、男性の顔立ちを3つの軸(1軸:目の開き、2軸:目の間隔、3軸:顔と鼻の大きさ)で表した。

次に、各軸の顔形態特徴を表した顔写真をCGで作成し、約7000名にそれぞれの特徴が与える印象について調査したところ、各軸の顔形態特徴

が異なる印象を与えることが明らかになった。こうした知見から、主に目周りの印象に関わる1軸2軸の結果を活用し、「男性版顔立ちマップ」が完成した。

なりたい印象がある場合には、自身の顔立ちを分析して眉の形を変えるのが効果的で、目の大き

さや角度、両目の間隔などを強調あるいは弱めて見せるように眉を整えることが、印象を変化させることができる。

例えば、「男性版顔立ちマップ」で、「COOL L(クール)」の顔立ちの人には、目もとが求心的で目尻が上がり、すっきりとした印象を使い分け

ることが可能だ。積がやや狭いため、洗練された印象のクールな魅力を持っている。

そこで、さらに眉をやや丸みを持たせるアーチ状に描いたり、角度を弱めたりすることで、さまざまな印象に変化させることができる。シーンによって

乳化力保水力・浸透力が高まる独自成分を開発

ポーラ

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業は、1つの成分だけで高い乳化力「角層の保水力向上」「製剤の肌への浸透力」の3つの機能を

有する天然由来の独自成分「Mal2Far(マルトオリゴ糖)」の開発に成功した。保水力から洗浄品まで活用可能であり、その構造的特徴から、さまざまな製剤での効果が期待できる。

これにより、製剤を問わず、心地よい感触とさまざまな機能を持たせることができる。今後、多くの製品に幅広く活用していく。

同成分は、わずかな使用量でさまざまな油や粉体を多量に乳化・分散することができ、メイク汚れを

独自成分 Mal2Far により、心地よい感触で多機能化を実現

開発した天然由来の独自成分 Mal2Far の化学構造

- 高い乳化力を付与
 - ✓ クレンジング力が向上
 - ✓ 洗い流さずばりで後肌をぬめらかにする
 - ✓ 崩れるような劇的な感触変化
- 角層の保水力が向上
 - ✓ 洗顔後に肌がつかばることなく、肌がうるおう
- 製剤の肌への浸透力が向上
 - ✓ 有用成分を肌すみずみへ届ける(弾力性の向上などに寄与)

Mal2Far が製剤で発揮する機能

- クリーム クレンジングに配合
- フェイスウォッシュに配合
- ミルクに配合

をすっきり洗い流すことが容易になり、クレンジング力や後肌のぬめらかさが向上。肌になじませると、ところどころにクリームが崩れる驚きの使用感を生み出すことができる。

また、角層に直接作用し保水力を高める機能を活用し、フェイスウォッシュ(洗顔料)に用いることで、洗顔後の肌そのものの保水力を高めることができる。

さらに、角層同士の間隙に存在する角層細胞間脂質の構造に働きかけ通り道を作ることができ、メイク汚れし、ミルク(乳液)に配合

第一三共ヘルスケア 肌の透明感について 客観的評価方法を開発

第一三共ヘルスケアは、人が感じる肌の透明感について客観的に評価する方法を開発し、日本色彩学会第51回全国大会(2020年6月27日〜7月5日)にて発表した。

研究では、今まで主観を解析すると、輝度の平均的な評価が多かったが、人平均値と目視評価スコアに感じる「透明感」の相関性を確認し、スキンのア化化粧品へ応用していく

を明らかにした。同社では、「乳酸」による皮膚保湿機能に及ぼす影響を確認し、スキンケア化粧品へ応用していく

6月27日〜7月5日)にて発表した。

研究では、今まで主観を解析すると、輝度の平均的な評価が多かったが、人平均値と目視評価スコアに感じる「透明感」の相関性を確認し、スキンのア化化粧品へ応用していく

を明らかにした。同社では、「乳酸」による皮膚保湿機能に及ぼす影響を確認し、スキンケア化粧品へ応用していく

6月27日〜7月5日)にて発表した。

異なる2つのリップクリームサンプルを用意し、試験を行った。対象者を角層水分量と経表皮水分量(TEWL)がほぼ均等になるように2群に分け、1つのリップクリームを、1日4回(朝、昼、夕方、就寝前)を目安に4週間連続して使用してもらった。

試験期間中は、サンプル以外のリップクリームや口紅などを使わず、使用前、2、4週目に目視評価、写真撮影、3D撮影、角層水分量測定を行った。

目視評価については、この程度の研究で、あれの程度と最も相関が高

スコアの基準をもとに判定。今回新たに、AN TERA 3D画像を取得し、シワカスタムモードから「くぼみ指数」を定量的に算出した。

その結果、水分閉塞性の高いリップクリーム(高水分閉塞性処方)を使用した群では、「あれスコア」のレベルが2、4週と下がる傾向にあり、4週後には有意に、落層(らふせつ)皮むけ)がない状態へ向かうことがわかった。また「シワスコア」も「くぼみ指数」に比べて、高水分閉塞性処方群では、4週後に有意に変化し、深い縦シワやくぼみが見られなくなった。

ことがわかっていいる唇の「角層水分量」に関しても、高水分閉塞性処方群は2、4週と有意に増加しており、見た目だけ

でなく角層の状態もよくなったことが明らかとなった。

唇のケアには一般的にリップクリームが使用さ

れているが、今回の検討で、塗膜の水分閉塞性の違いが唇のあれ改善に与える影響が大きいことが明らかとなった。

研究では、前腕に乳酸水溶液を2週間連用し、角層水分量と経表皮水分量を測定。角層の保湿度を評価した。その結果、「乳酸」による角層水分量の増加と、角層パラメーターの改善が確認された。

続いて、正常ヒト表皮角化細胞へ「乳酸」を作用させた時の表皮分化、保湿関連因子の遺伝子発現解析を行った。その結果、「乳酸」を24時間作用させることで、天然保湿因子(NMF)の素と

乳酸の皮膚保湿機能に及ぼす効果で新メカニズム発見

シーボン

シーボンは、東京工業大学応用生物工学部先端化粧品コースの正木仁教授と共同研究を行い、 α -ヒドロキシ酸(AHA)の一種である「乳酸」が皮膚保湿機能に及ぼす効果について、新たなメカニズムを発見した。

乳酸は、天然保湿因子(NMF)の構成成分の1つであり、一般的には汗により供給されると考えられている一方、美容品コースの正木仁教授と共同研究を行い、 α -ヒドロキシ酸(AHA)の一種である「乳酸」が皮膚保湿機能に及ぼす効果について、新たなメカニズムを発見した。

乳酸は、天然保湿因子(NMF)の構成成分の1つであり、一般的には汗により供給されると考えられている一方、美容品コースの正木仁教授と共同研究を行い、 α -ヒドロキシ酸(AHA)の一種である「乳酸」が皮膚保湿機能に及ぼす効果について、新たなメカニズムを発見した。

角層水分量の向上

研究では、前腕に乳酸水溶液を2週間連用し、角層水分量と経表皮水分量を測定。角層の保湿度を評価した。その結果、「乳酸」による角層水分量の増加と、角層パラメーターの改善が確認された。

続いて、正常ヒト表皮角化細胞へ「乳酸」を作用させた時の表皮分化、保湿関連因子の遺伝子発現解析を行った。その結果、「乳酸」を24時間作用させることで、天然保湿因子(NMF)の素と

「乳酸」はヒト表皮角化細胞へ「乳酸」を作用させた時の表皮分化、保湿関連因子の遺伝子発現解析を行った。その結果、「乳酸」を24時間作用させることで、天然保湿因子(NMF)の素と

「乳酸」はヒト表皮角化細胞へ「乳酸」を作用させた時の表皮分化、保湿関連因子の遺伝子発現解析を行った。その結果、「乳酸」を24時間作用させることで、天然保湿因子(NMF)の素と

肌の透明感について 客観的評価方法を開発

第一三共ヘルスケアは、人が感じる肌の透明感について客観的に評価する方法を開発し、日本色彩学会第51回全国大会(2020年6月27日〜7月5日)にて発表した。

研究では、今まで主観を解析すると、輝度の平均的な評価が多かったが、人平均値と目視評価スコアに感じる「透明感」の相関性を確認し、スキンのア化化粧品へ応用していく

を明らかにした。同社では、「乳酸」による皮膚保湿機能に及ぼす影響を確認し、スキンケア化粧品へ応用していく

6月27日〜7月5日)にて発表した。